

年 度 評 価 シ ー ト

課名 スポーツ振興課

施設の名称 静岡市清水ナショナルトレーニングセンター 清水日本平運動公園球技場及び庭球場 静岡市清水蛇塚スポーツグラウンド 静岡市清水庵原球場	指定管理者名 静岡スポーツスクエア共同事業体 代表者（公財）静岡市まちづくり公社
---	--

1 履行状況

(1) 目標達成

ア 利用者満足度

目標値：95%

① 清水ナショナルトレーニングセンターの満足度97.5%（前年度98.5%）
＜回答総数：1,148件、「大変満足」「満足」と回答のあった件数：1,119件＞

② 清水日本平運動公園球技場及び庭球場の満足度98.3%（前年度98.0%）
＜回答総数：836件、「満足」「やや満足」と回答のあった件数：822件＞

③ 清水蛇塚スポーツグラウンドの満足度100%（前年度100%）
＜回答総数：65件、「大変満足」「満足」と回答のあった件数：65件＞

④ 清水庵原球場の満足度100%（前年度100%）
＜回答総数：30件、「満足」「やや満足」と回答のあった件数：30件＞

イ 利用者数

目標値 774,900 人、実績値 788,883 人（前年度 810,713 人）、
達成率 101.8%（前年度比 97.3%）

■施設利用者数

単位：人

施設名	令和7年度			令和6年度	増減率
	目標値 (事業計画)	実績値	達成率	実績値	
清水ナショナルトレーニングセンター	228,700	200,236	87.6%	204,767	▲2.2%
清水日本平運動公園 球技場・庭球場	346,200	388,282	112.2%	392,233	▲1.0%
清水蛇塚スポーツグラウンド	30,000	26,889	89.6%	28,512	▲5.7%
清水庵原球場	170,000	173,476	102.0%	185,201	▲6.3%
計	774,900	788,883	101.8%	810,713	▲2.7%

(参考) 令和元年度＜コロナ前＞ 実績値（合計）：673,351 人 増減率：17.2%

(2) 人員配置状況

①清水ナショナルトレーニングセンター

正規職員13人、パート職員29人

②清水日本平運動公園球技場及び庭球場

正規職員5人、パート職員6人

③清水蛇塚スポーツグラウンド

正規職員2人、パート職員6人

④ 清水庵原球場

正規職員2人、パート職員6人

(3) 業務実施状況

【指定事業及び自主事業について】

静岡市清水ナショナルトレーニングセンター、静岡市清水蛇塚スポーツグラウンド、静岡市清水庵原球場並びに清水日本平運動公園球技場及び庭球場の管理に係る協定書中、指定管理業務仕様書別紙1「施設を利用した各種催しの企画及び実施に関する業務」

に規定する各種事業について、業務仕様書及び事業計画書に従って実施されている。

主な事業と参加者数及び回数は以下のとおり。

■指定事業及び自主事業参加者数

施設名	目標値 (仕様書)	実績値	達成率
清水ナショナルトレーニングセンター	26,500人以上	28,129人	106.1%
清水日本平運動公園 球技場・庭球場	4,700人以上	20,443人	435.0%
清水蛇塚スポーツグラウンド	3,100人以上	2,237人	72.2%
清水庵原球場	1,400人以上	1,438人	102.7%
計	35,700人以上	52,247人	146.4%

■指定事業実施回数

施設名	目標値 (仕様書)	実績値	達成率
清水ナショナルトレーニングセンター	5事業以上 全1,500回以上	5事業 1,765回	100% 117.7%
清水日本平運動公園 庭球場	(キッズテニス教室) 1事業以上全3回以上 (硬式テニス教室) 3事業以上全64回以上	1事業 全3回 3事業 全29回	100% 100% 100% 45.3%
清水庵原球場	2事業以上 全15回以上	2事業 全14回	100% 93.3%

■教室・イベント等利用者満足度（一部抜粋）

施設名		事業名	募集 人数	参加 実績	目 標 満 足 度	満足度
清水ナショナルトレーニングセンター	自 主	屋外ウォーキング教室 (グリーンフィットネス)	70 人	45 人	95%	100%
清水日本平運動公園 球技場	自 主	STADIUM CAMP 2025 春・秋	31 組	26 組 84 人	95%	100%
清水日本平運動公園 庭球場	指 定	わくわくキッズテニス教室	40 人	52 人	95%	100%
清水蛇塚スポーツグラウンド	自 主	芝生で運動遊び	60 組	78 組	98%	100%
清水庵原球場	指 定	軟式野球教室（中学生の部）	20 人	58 人	95%	100%

【検証・分析等】

清水ナショナルトレーニングセンター・清水蛇塚スポーツグラウンド・清水日本平運動公園球技場では、手入れの行き届いた芝生グラウンドや、「駿河湾・富士山」を眺望できるといった敷地内のロケーションを活かし、屋外でのプログラムを積極的に実施。通常のスポーツ利用者以外をターゲットとした「散策イベント【親子古墳探検隊】」（トレセン）、「STADIUM CAMP 2025」（日本平）、「風を作ってあげてみよう！」（蛇塚）などのイベントを企画するなど工夫を施した事業運営を行うことで幅広い参加者から好評を得ている。

また、新規教室については、初めて施設を訪れる方に、どのような雰囲気教室が行われるのか実際に体験してもらう体験教室を開催することで、新規参加者の獲得に繋がっていた。

スポーツに関する市民意識調査の結果の課題として挙げられる「スポーツをする時間がない」「健康志向の高まり」といった点に着目し、働き盛り世代・子育て世代とその子どもを対象に楽しく体を動かす運動遊びや子どもの体力向上に特化したスポーツ教室など、多方面のニーズに対応した多種多様な事業が実施されており、「静岡型 Sports in Life」の推進に大きく寄与している。

指定管理者のこれまでの経験を活用した取組として、施設を利用する各競技のトップチームとの連携・協働として「シャンソン化粧品シャンソンVマジック」のバスケットボールクリニックや「ヴァンフォーレ甲府」によるサッカー交流会などの地域振興を目的としたスポーツクリニックの開催や、公正・公平かつ透明性のある利用承認のための「年間利用調整会議」の実施、施設を核とした地域共生・活性化の推進として「清水いはらフェス」、「いはらマルシェ」への積極的な参加など様々な取り組みを実施している。

清水日本平運動公園球技場及び庭球場では、目的である「市民の健康増進及びスポーツの振興に資する」を達成するために、子どもから大人までを対象とした多彩なプログラム構築に努めており、地域の健康への取り組みの推進や新しい参加者がスポーツや運動に興味を持ちやすくなる環境が整えられた。

自主事業では、芝生グラウンドを活かした「星空ヨガ」のほか、プロサッカーチーム「清水エスパルス」のホームスタジアムである強みを活かした「記念撮影プラン」・「プロサッカー選手体験」などの新規自主事業については、清水日本平運動公園球技場に潜在する価値を最大限活用し、事業の多様化と市民のスポーツに対する芽生えの創出に寄与している点が高く評価できる。

また、参加者の満足度向上を常に意識した運営により、結果的に多くの事業で満足度100%を得られていることは、高く評価できる。加えて、天候不良によるイベントの開催可否に関する連絡手段としてWebサイトを積極的に活用するなどの試みもなされ、従来の連絡よりもわかりやすくなったとの声も寄せられるなど、利用者が迅速かつ正確な情報を入手できる環境を整えることができている。その他、「エスパルス」のネームバリューを活かした周知方法や運営方法から大きな集客効果も得られており大変評価できる。

清水庵原球場においては、野球という競技を軸に清水野球連盟や静岡県高野連、静岡県学生野球リーグ、元プロ野球選手等と連携しながら、様々な事業を実施している。また、ホームタウンチームである「ハヤテベンチャーズ静岡」「静岡女子ソフトボールチーム」と協働し選手と触れ合う機会を創出。子どもたちに向けたクリニックを開催することで子どもたちのスポーツへの関心の向上に大きく寄与している。

総じて、教室事業等については、各施設とも事業計画に沿った実施がなされていた。悪天候に見舞われ中止となっている事業について、多くは中止時の参加者対応や代替実施案の検討などへの工夫を凝らし、参加者への丁寧な対応に努められている一方で、中止のまま代替事業の実施がなかった事業も見受けられたことは、残念に感じる。努めることで、満足度の向上と事業計画に沿った計画的な運営がなされていた。

【施設管理業務について】

維持管理業務については、各施設とも、各種設備の保守点検等は第三者委託により実施し、各業務とも事業計画に従って適切に行われている。

また、第三者委託において、他施設との一括発注が可能なものについては、契約を一本化し、コストの削減に努めている。

修繕については、グループ内で安全委員会を設置し、各施設及び器具等の点検を行い、利用者の安全確保と、経年劣化による不具合発生等の未然防止対応に努め、計画的かつ効率的に実施しており、修繕費を有効に活用している。

各施設の主な修繕内容は以下のとおりである。

① 清水ナショナルトレーニングセンター

フットサルコート照明器具配線修繕、トレーニングルームマシンカバー張替え修繕、館内高圧受電設備制御部品交換修繕、消防設備点検時不良箇所修繕 等

② 清水日本平運動公園球技場・庭球場

誘導灯取替修繕、散水設備修繕、排煙設備修繕、照明制御装機器取替修繕 等

③ 清水蛇塚スポーツグラウンド

乗用3連芝刈機修繕、薬剤散布車ポンプ修繕、外トイレドア取付修繕、非常照明不点灯箇所修繕、製氷機修繕 等

④ 清水庵原球場

スポーツトラクター修繕、バイプロエアレータータイン交換修繕、自動ドア装置取替修繕、案内板修繕、手すり修繕 等

このような努力や利用者ニーズに応えた管理運営業務の誠実な履行により、グループ全体としては、利用者数目標を上回る実績となったことは高く評価できる。

【確認結果】

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

【具体的な意見・要望の内容と対応状況】

意見等：平日午後の時間帯において、特定団体の利用が集中し、一般利用者がトレーニングルームを利用しづらい状況があるのではないか。

対 応：すべての利用者が公平で快適に利用するという運営の基本方針を説明したうえで、今後の対応としてトレーニングルームの利用ルール及び利用時間管理の再周知、混雑時における職員による利用調整・声かけの徹底をおこなう理解を得た。

【検証・分析等】

各施設において、利用者からの意見・要望に対して、丁寧に回答できており、良好な対応をしている。

【確認結果】

○：各施設において、利用者からの意見・要望に対して、適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。今後も利用者からの多種多様な意見・要望に対して、親切・丁寧な対応を期待する。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

（1）利用者満足度調査

利用者からの意見を施設運営に反映するため、施設利用者を対象にアンケート調査を実施した。

【調査結果】

※管理運営の目標と実績にて記載

【検証・分析等】

4施設の平均値で算出した満足度は99.1%（前年度99.1%）であり、目標値である満足度95%を大きく超えたことは高く評価できる。スタッフ対応についての項目につ

いても、いずれの施設も大変良好な結果となっており、スタッフ一人ひとりが全ての利用者に対し明るく、快活な接遇対応に心がけ、親しみやすい施設づくりに貢献していることが伺える。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

(2) 市民アンケート（回答者総数 221 人、当該施設を知っていると回答した人：92 人）

施設の認知度等を把握するため、「スルガフェス2025」「しみずワクワクまつり2025」のイベント来場者を対象に、調査を行った。当グループの平均認知度は41.4%で、前年の50.1%と比較し9.7ポイント減少した。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

4 指定管理者の経理状況の評価

【収支状況】

指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。

【検証・分析等】

指定管理業務についての収支状況については、支出超過が見られる。これは、清水ナショナルトレーニングセンターにおける合宿利用に関して、チーム側の事情により直前で予約に空きが出てしまうことがあったことやレストラン運営に起因する理由が挙げられ、利用料金収入に影響が出たものであるが、迅速かつ適切に営業をかけ、小規模ながらも新規利用団体を獲得するなどして穴埋めに努められていた。しかし、レストランについては、当該施設の立地上の問題や合宿チームへの対応という変動的な要因により、指定管理者の工夫にも限界が見られた。

また、コロナ禍を経たことで、どのスポーツ競技においても、1選手当たりに必要な空間（面積）が増加した傾向があり、合宿希望チームからの要望諸室数に、現状の清水ナショナルトレーニングセンターの環境が対応できなくなったことも、要因として考えられる。（ハード的限界）

【確認結果】

○：施設によっては健康的な収支状況ではない点が見られるものの、安定的な施設運営を行うために努められている。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

施設の管理運営全般については、子どもから高齢者まで幅広い年齢層・価値観の利用層に対して、各施設とも創意工夫を施しながらの運営が見られた。事業計画に対し

ては、静岡市が目指すスポーツ施策の方向性やスポーツ推進計画の進捗状況及び課題等を把握し、積極的かつ着実な管理運営・事業展開が見られた。

各施設において、利用者の安全を第一とした、丁寧な姿勢が顕著に見られたことから、市民に対するイメージの適切な保持が良好に実施されていることが伺える。

また、利用者ニーズや動向の把握への注力と実績分析を実施することで、コロナ禍以前の利用者数に戻すという結果が得られている。

また、市民利用と同様に力を入れているプロチーム等のキャンプへの対応については、各チーム・選手より好評を得ている。

施設一丸となって準備・手配を実施することで、施設の使い勝手の良さや職員の行き届いた対応、ホスピタリティに高評価を頂き、数多くのキャンプの成功に寄与している。

コロナ禍で利用を断念していたチームに積極的に営業することで利用者数は増加している。

その結果、チームとの信頼構築に繋がり、施設としてはその実績・経験を提案することで、新たなチームの利用開拓に繋げており、安心・安全な利用環境の提供を通し、静岡市の交流人口の増加に大きく寄与している。

市外・県外のチームだけでなく令和5年12月に誕生した新たなホームタウンチーム「ハヤテベンチャーズ静岡」への協力支援として、本拠地である清水庵原球場における環境整備だけでなく、コンディショニングトレーニングを行うための施設として、清水ナショナルトレーニングセンターが活かされている。一般利用者との公平性を保ちながらも、ストレスなく選手が利用できるよう調整を図り、レストランにおいては数多くのプロチーム合宿の経験から、選手に対しアスリート向けのメニューを提供し、フィジカル面の強化など、多角的にホームタウンチームの支援を実施している。同様に「ベルテックス静岡」や「静岡ブルーレヴズ」などのホームタウンチームによる練習利用にも積極的に協力支援を実施しており、スポーツ推進計画で「ホームタウンチームの支援」に基づく事業実施をしている。

地域振興を目的とした一例として、清水ナショナルトレーニングセンターでの「シャンソン化粧品シャンソンVマジック」のバスケットボールクリニックや「ヴァンフォーレ甲府」によるサッカー交流会で、技術力向上だけでなく、トップアスリートとの交流を通じて協議文化の理解を深める場を提供し、未来のトッププレーヤーを夢見る子どもたちに刺激と感動を与え、子ども達のスポーツへの関心とスポーツ技術の意欲向上に繋げる協働教室事業を実施するなど、施設を利用する各競技のトップチームとの関係性やノウハウを活かした施設ごとの特質的な取組みができていることについては、大変評価できる。

危機管理対策の一環として、AEDの管理や個人情報の取扱い、緊急事態を想定した対応体制の徹底が行われており、緊急時における現場の対応等が適切かつ速やかに講じられるよう、大会主催者の協力を得ての実践訓練等を実施するほか、定期的な研修と日々の確認・管理が確実に施されており、危機管理意識の共有・向上がみられる。

経費節減に関しても、ペーパーレス化の推進、省エネルギー対策の実施など、施設の効

率的運営を行うことで、ライフサイクルコストの節減に努めており、資格を有する職員による修繕等の内製化を可能な限り推進することで、コスト削減が図られている。ホームページの管理等も全て職員によって実施されており、経費節減を意識した姿勢は高く評価できる。

地域連携については、「地域や施設の活性化」を目的とし「人と人とのふれあい」や「賑わいの創出」の構築に努めている。

庵原地区に対しては、自治会会議への積極的な出席をはじめ、地域イベントへの協力と参加、庵原自治会誌「ふれあいいはら」への情報発信などによる施設利用促進を図っている。中部横断道の整備とともに、両施設を拠点とした庵原地域の交流人口拡大を目指す取組として、「庵原地区道の駅社会実験実行委員会（庵原連合自治会）」に全面的に協力し、同委員会主催の「しみずいはらフェス」を清水庵原球場にて開催。清水ナショナルトレーニングセンター職員が企画段階から積極的に参加し、結果として普段利用機会の無い多くの市民への施設認知度向上、施設利用への関心にも繋がっているため、高く評価できる。庵原地区の核となる施設として、地域や様々な団体、行政機関と連携・相互協力することで、多様性のある施設の有効活用ができています。

蛇塚地区に対しては、自治会と共に様々な活動（自主防災組織の備蓄の一時保管・防災意識を高めるイベント等）を実施するなど、良好な関係性を構築している。同施設では「総合型地域スポーツクラブ」の育成・発展に繋がるよう、竜爪 CSC 主催大会の支援に取り組むことで連携・協働に努めている。各施設において、近隣小学校の学外授業や職場体験の受け入れや、近隣幼稚園の遠足として施設見学の受け入れ、小学校に赴いてのキャリア教育授業の担当や着衣水泳教室での指導などにも力を入れている。

上述のように、グループ全体として地域の活性化と振興に寄与することで、地域に根ざした親しみある施設づくりがなされている。

スポーツ以外の事業として、清水ナショナルトレーニングセンターでは、スポーツ振興課との連携はもとより、プロチームのキャンプ時にも清水区地域総務課・農業協同組合・漁業協同組合と連携し、地場産品を提供するなど、幅広い公共事業とも連携することで、シティセールスに努めることができていますことは高く評価できる。このようなスポーツ以外の事業活動が施設の認知度の向上、その先の利用者数拡大の一助となっているため、評価できる。

トレセングループの基本方針である「公共施設としての役割と活用」に対して、「幅広く多様性に富んだスポーツの機会」を演出するため、様々な取組が遂行されている。当グループは、市民スポーツ利用とトップスポーツ利用の二つの側面を併せ持っており、その上で地域との結びつきを意識した事業展開を行うことで、市民へのより良いスポーツ環境の提供と地域振興が綿密に図られている。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。